



大森六中だより

令和2年 7月号
大田区立大森第六中学校
校長 松尾 廣文
TEL 3726-7155

朝礼講話「ベーブ・ルース」

7月6日



新聞で、「ベーブ・ルースは死んだ」という言葉を初めて知りました。

ベーブ・ルースは、メジャーリーグのヤンキースで生涯714本のホームランを打ち、ハンク・アーロンに破られるまで39年間、歴代1位の記録を誇った大打者です。

しかし、この大打者は、大戦後すぐ、1947年、50過ぎの若さで、病没しています。

では、冒頭で紹介した「ベーブ・ルースは死んだ。」とは、どんなことを指しているのでしょうか。

この言葉は、ピンチを迎えたとき、ピッチャーに対して、チームメートが伝える言葉ということでした。

「ルース程の強打者はもういないんだから、思い切って投げろ。」という意味だそうです。

なるほど、そういう使い方をするのかと、納得をした次第です。

亡くなった後も、ピッチャーにとってそれほどの脅威を感じるバッターに挙げられるルースは、すごいと思います。

日本でも、先月末から無観客ですが、プロ野球が始まっています。この後、5000人の観客を入れての開催も検討しているそうです。

全ての活動が徐々に再開されてきています。

しかし、全ての日常が帰ってくるわけではないことを理解しておく必要があります。「ルースは死んだ。」が、ピッチ

ャーに与えた心理的效果のように「日本の緊急事態宣言は終わった」と安心することはできません。

街に人出は戻ってきていますが、東京は感染者数が増えつつあり、第二波、第三波も十分考えられ、警戒しなければなりません。

学校が再開されて、ひと月、ちょっと気が緩んでいないでしょうか。

手洗い・うがいを頻繁にしていますか。マスク着用、検温・健康チェックも雑になってきていませんか。

皆さんの様子を見てみると、ソーシャル・ディスタンスが気になってきました。触れ合いたいのは、良く分かりますが、少し離れて、お話をするようにしてください。

因みに、ベーブ・ルースはヤンキースに移る前、ボストン・レッド・ソックスに在籍中、1918年に流行ったスペイン風邪に罹患し、入院を余儀なくされたということでした。

今回のコロナ感染で、よく引き合いに出されたのが、100年前に日本も含め、世界的に流行したスペイン風邪です。スペイン風邪は、アメリカでは、第二波、第三波とピークがあったと言われ、アメリカでは、ちょうど、大田区の人口程の67万の方が亡くなったということです。

くれぐれも、皆さん、油断がないように気を引き締め、第二波がおきないように、警戒をして行動をしましょう。

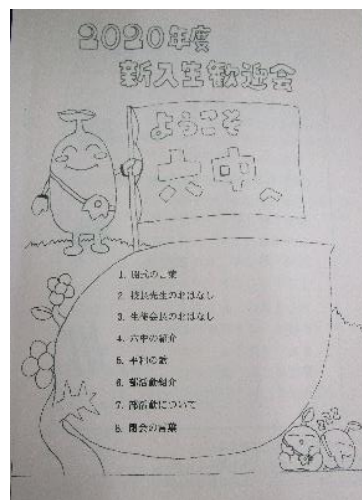
ホタル放流式

6月17日(水)、自然科学部を中心にホタルを洗足池の水生植物園に放流しました。この日のために、自然科学部は毎日昼休みにホタルの世話をしてきました。当日は自然科学部と農援隊のほかに、近所の方にも放流式に参加してもらうことができました。放流後しばらくして、洗足池で夜ホタルが飛んでいるとの知らせも入ってきています。ぜひ光を放ちながら飛ぶホタルを探してみてください。



リモート歓迎式

6月22日(月)に各教室で映像配信によるリモート歓迎式が行われました。生徒会を中心に工夫した映像を作り、農援隊や委員会・部活動などの紹介をしました。この歓迎式を経て、委員会決めや仮入部が始まります。これから1年生が六中生として活躍していく姿がとても楽しみです。



まちなか点検

2年生がまちなか点検を行いました。例年は地域の方にご協力いただき、防災倉庫や消火栓のある場所などを教えていただきますが、今年度は自分たちで自分の住む地域を見て回り、防災の観点でどのような工夫がなされているのか探してきました。消火器が一定間隔で配置されていること、今ではコンビニや民家でもAEDが設置されている場所があることなどを発見し、驚いた生徒も多くいました。

点検中



まとめ作業



発表会



農援隊始動

農援隊の活動がスタートしました。大岡山駅前などの校外に出るの活動はまだできませんが、校門横と下校庭脇の花壇に花の種を蒔きました。今年度初めての活動でしたが、1年生もたくさん参加して梅雨の晴れ間に皆で楽しく種まきをすることができました。きれいな花を咲かせてくれるのが楽しみです。ぜひ皆さんに見に来ててください。



学校生活を元気に過ごすために

大田区立大森第六中学校 保健室



保健室では、学校現場での「WITH コロナ」をどのように考え、感染防止、感染拡大を防ぐためにはどのような対応が最善の方法か、日々更新される情報を確認しながら、文部科学省や東京都のマニュアルに基づき対応しています。またこれからの時期において、注意しなければいけないのが熱中症です。特に今年は休校が続き、子どもたちの体力の低下や、家にいる時間が長く暑さに慣れていないこと、一番暑い時期である7月下旬や8月も学校があるため、熱中症による事故を非常に危惧しています。学校では熱中症による事故を予防するため、体育や部活動の活動前後の健康観察を行い、指導内容を考慮するとともに、黒球式熱中症指数計を使用し、暑さ指数を確認しながら活動を行っています。しかし、朝食を食べてこなかったり睡眠不足があると、熱中症にかかるリスクが高くなります。ぜひ、ご家庭では早寝早起き朝ごはんを実践していただくとともに、お子さまに水分補給のための水筒を持参させてください。

新型コロナウイルスの対応について

学校での新型コロナウイルスの対応において、大切なことは「学校に持ち込まない」ための対策と、「感染を拡大させない」ための対策だと考えています。そのためには、学校、家庭、地域が連携して取り組むことが大切です。

■「持ち込まない」ためにできること

登校前には健康観察、検温を必ず行い、健康カードに記入させてください。体調が悪い時には、無理をさせず、ご家庭でゆっくりと休養し、必要であれば医療機関に受診をお願いいたします。

教職員も全員出勤前に検温し、健康チェックを行っています。学校にご来校される際には、地域の皆様方も、健康チェックとマスクの着用をお願いいたします。

■「感染を拡大させない」ためにできること

学校では、子どもたちに「手洗い」「マスクの着用」「人との適切な距離を保つこと」について指導しています。学校が再開され、やっと友達と一緒に学校生活を送ることができるようになった子どもたちにとって、「距離を保って友達と接する」ことは非常に難しいことではありますが、一生懸命意識して友達と接す

る子どもたちの姿がみられます。「濃厚接触者」の定義の一つには、「1メートル程度の距離で、感染防止策なしに15分以上接触」とあります。「マスクを着用し、人と適切な距離を保って行動すること」は、感染予防の観点から非常に重要なことですので、今後も継続してご家庭でもご指導ください。

生徒下校後は、毎日教職員で校内の消毒を実施しています。また、部活動の再開に伴い、顧問と相談しながら各部活動の使用器具等の消毒も実施しています。消毒方法や必要個所については、学校薬剤師の桐生先生に助言をいただき、常に見直しをしながら対応をしています。

最後になりますが、保護者の皆様も大変心配なことが多い中、「いつもありがとうございます」「大変ですね」など温かい声をかけてくださることが、とても嬉しく、心より感謝しています。大切なお子さまを守るため、今後も学校、保護者、地域の皆様と協力して対応していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。心配なことがありましたら、いつでも保健室までご連絡ください。